

株式会社大洋（群馬県）

～ 情報化社会に知財で情報を守る ～

1. 大切な個人情報の保護に特許技術を

大洋漁業株式会社（マルハ株式会社の前身）で船に乗り、電信士として勤務していた清塚社長は、得意の機械技術を活かそうと昭和36年に印刷所を創立した。社名は大洋漁業からとった。最初は紙への印刷だけをしていたが、凹凸のある物にも印刷をしようという考えから、日本人形やダルマに印刷をする立体面印刷機を製造した。この技術が同社の特許第一号となった。

同社が創業時から持ち続けているポリシーは「こんなものがあればいいな、こんなことができたらいいなということを実現しようとするチャレンジ精神」であり、常に新しい技術を追求している。

新しいアイデアは日常生活の何気ない出来事に隠れていることもある。例えば、特許を取得したスキミング防止カード「シェリー（登録商標）」は、紙幣の真贋を紙幣に内蔵されたICチップの情報を紙幣に触れずに読み取ることで判別する偽札鑑定機をテレビで紹介しているのを見てヒントを得た。非接触で鑑定ができるということは、裏を返せば非接触でも情報を盗まれてしまうということであり、情報化社会のこの時代にセキュリティ関連製品は需要があると考えた。

「シェリー」の原理は簡単だ。通常はICカードの情報を読み取る装置（ICカードリーダー）が発生する磁界をICカードが受けると、カードに内蔵されたICチップから情報が発信され、ICカードリーダーが読み取る。一方、「シェリー」がICカードリーダーから出る磁界を受けた場合は、その磁界と反対方向でほぼ同じ強さの反磁界を発生させ、この反磁界によってICカードリーダーからの磁界は打ち消される。「シェリー」のこのような性質を利用し、ICカードと「シェリー」とを重ねて持っていれば、悪意を持った第三者が保持するICカードリーダーから大切な個人情報等を守ることが可能となり、スキミング犯罪からの防衛策として有効である。

また、カードのデザインにも工夫を凝らし、他のカードと間違えないようカーブを付けた形状にし、色彩もカラフルにした。また、オリジナルデザインのカードも作れるようにした。

現在、多くの企業から引き合いが来ている。

2. 知財に対する心構え

清塚社長は、特許は一度ダメでも何回もチャレンジするものと考えているが、特許を取ったからといって売れるとは限らないし、だからといって、特許を取らないと模倣品に悩まされることになるため、特許との付き合い方は難しいと認識している。

いかに優れた商品であってもクチコミで広がるのには限界があり、販路は自分で開拓していかなければならない。そんな時に、特に大手で扱ってもらうためには特許が

強い味方となる。下請けから脱却して、中小企業が大手と競い合っていくためには、特許は必要不可欠である。

特許取得の手続きは特許事務所に依頼しているが、弁理士はパートナーで、主役はあくまでも自分だということを忘れず、決して人任せにしないようにしている。

今後も一つ一つの特許を大切に事業を展開していく。

【保有権利に基づく製品例】



スキミング防止カード「シェリー」



三次元印刷の例

<会社概要>

名称及び代表者名	株式会社大洋 代表取締役社長 清塚 富男
本社所在地	群馬県渋川市有馬1790-2
創業	1961（昭和36）年
資本金	1,000万円
従業員数	35名
主要製品	スキミング防止カード、プラスチック製品、金型・射出成型、三次元曲面印刷
電話	0279-23-1551
URL	http://www.taiyoprt.co.jp/index.html